

# 西田幾多郎 ニシダ,キタロウ 1870～1945

近代日本の代表的哲学者。「西田哲学」と言われる独自の哲学体系を打ち立てた。

明治3(1870)年、現在の石川県河北郡宇ノ気町に富裕な地主の長男として生まれる。金沢の師範学校に入学するが、翌年病気のために退校。2年後、石川県専門学校(翌年、第四高等学校となる)に補欠入学した。同級には「禅」の研究で知られる鈴木大拙もあり、彼とは終生変わらぬ友情が続くことになる。

明治24(1891)年、東京帝国大学文科大学哲学科(現在の東京大学)に選科生として入学したが、その待遇は本科生と違い、図書館でも自由に閲覧が許可されないという差別的なものであったという。卒業後の数年間は幾多の辛酸をなめ、明治32(1899)年、ようやく金沢第四高等学校の講師となって、10年間をここで過ごした。以後、明治42(1909)年39歳のときに学習院大学教授、翌年には京都帝国大学助教授となった。

彼は京都の妙心寺や大徳寺などに参禅し、読書や思索に励んで多くの論文を雑誌に寄稿した。明治44(1911)年、学校における講義の草案が元になった『善の研究』を出版。大正4(1911)年から同12(1923)年にかけては、『思索と体験』、『自覚に於ける直観と反省』、『意識の問題』、『芸術と道徳』等を出版する。昭和2(1927)年に刊行された『働くものから見るものへ』において、「場所の論理」の考えが打ち出され、「西田哲学」と呼ばれる思想の基礎が確立された。

昭和15(1940)年、哲学者として初めての文化勲章を受ける。彼は、第二次大戦の終結を待たず、75歳で没した。彼の墓は北鎌倉の東慶寺にあり、終生の友、鈴木大拙とともに眠っている。

## Great Books 57 善の研究(ぜんのけんきゅう)

明治44(1911)年に出版された『善の研究』は、明治の初めに日本に西洋哲学が導入されて以来、日本人によって著された最初の独創的哲学体系である。

本書は、第1編「純粹経験」、第2編「實在」、第3編「善」、第4編「宗教」の4編から構成される。金沢の第四高等学校での講義の草案が元になっており、まず、第2編、第3編が書かれ、その後、第1編、第4編が加筆された。

最初に書かれた第2編において、まず、「真の實在とは何か」という、哲学にとって最も根本的な問題を提起、西田はそれは「**純粹経験**」であるという。「純粹経験」とは、少しも思慮分別の加わらない、真に経験そのままの状態のことであり、言い換えれば、主観と客観とが、いまだ分離していない意識の統一的状態のことである。彼はこの「純粹経験」を、常に分化発展し、そこから多様な意識現象や客観的世界を成立させ、さらに大きな統一へとつながっていくものだと考えた。

第3編の「善」では、真の實在を「純粹経験」とする立場に立ったとき、人は何をなすべきかという実践的問題が論じられている。彼は従来の倫理学を四つの説に分類し、その限界を指摘した後で、真の倫理学は「純粹経験」の発展完成にあるという「活動説」を提唱した。

そして後から加筆された第1編で、彼は「純粹経験」からどのようにして思惟や意思や知的直観といった多様な意識現象が生じるのかを論じ、次いで最後の第4編で、「純粹経験」の立場から宗教の問題を論じている。

こうした『善の研究』における「純粹経験」の考え方は、ベルグソンなどの20世紀の新しい哲学と共通の性格をもっており、直接経験の明証性から出発する点において、その思想は現象学に通じるものとしてもみなされている。

## Key Word 純粹経験

経験するというのは事実其儘そのままを知るの意である。全く自己の細工を棄てて、事実に従うて知るのである。

純粹というのは、普通に経験といっている者もその実は何らかの思想を交えているから、毫ごうも思慮分別を加えない、真に経験其儘の状態をいうのである。たとえば、色を見、音を聞く刹那、未だこれが外物の作用であるとか、我がこれを感じているとかいうような考のないのみならず、この色、この音は何であるという判断すら加わらない前をいうのである。それで純粹経験は直接経験と同一である。自己の意識状態を直下に経験した時、未だ主もなく客もない、知識とその対象とが全く合一している。これが経験の最醇なる者である。

< 西田幾多郎(著)『善の研究(岩波文庫)改版』第1編 第1章 冒頭 岩波書店 >

## ◆ *Great Books* 文献案内

- 📖 善の研究(岩波文庫ワイド版) / 西田幾多郎(著)  
岩波書店 1991年刊 254p <121.6Z/110> 資料番号 20279162
- 📖 善の研究 改版(岩波文庫) / 西田幾多郎(著)  
岩波書店 1979年刊 254p <121/ニA> 資料番号 12248969
- 📖 西田幾多郎全集 第1巻 / 西田幾多郎(著)  
岩波書店 1947年刊 470p <121.9/3/1> 資料番号 10199305
- 📖 日本の名著 47 西田幾多郎 / 上山春平(編)  
中央公論社 1971年刊 474p <081.6/34/47> 資料番号 12785440
- 📖 現代日本思想大系 22 西田幾多郎 / 西谷啓治(編)  
筑摩書房 1968年刊 472p <081.6/26/22> 資料番号 10149565

## ◆ 理解を深めるために 参考文献案内

- 📖 西田幾多郎の思想(講談社学術文庫) / 小坂国継(著)  
講談社 2002年刊 379p <121.63/8> 資料番号 21483029
- 📖 物語「京都学派」(中公叢書) / 竹田篤司(著)  
中央公論新社 2001年刊 308p <121.6LL/168> 資料番号 21452644
- 📖 日本思想史辞典 / 桂島宣弘(ほか編)  
ペリかん社 2001年刊 648p <121.03/2> 常置(相談室) 資料番号 21397237
- 📖 私と出会うための西田幾多郎 / 中岡成文(著)  
出窓社 1999年刊 197p <121.63HH/5> 資料番号 21199674
- 📖 現代思想としての西田幾多郎(講談社選書メチエ) / 藤田正勝(著)  
講談社 1998年刊 228p <121.63GG/3> 資料番号 21077417
- 📖 日本の哲学を学ぶ人のために / 常俊宗三郎(編)  
世界思想社 1998年刊 299p <121.6GG/147> 資料番号 21043740
- 📖 西田幾多郎その軌跡と系譜 / 藤田健治(著)  
法政大学出版局 1993年刊 148p <121.6BB/129> 資料番号 20576591
- 📖 西田幾多郎を読む(岩波セミナーブックス) / 上田閑照(著)  
岩波書店 1991年刊 413p <121.6AA/121> 資料番号 20400313
- 📖 西田哲学の研究 / 小坂国継(著)  
ミネルヴァ書房 1991年刊 396p <121.6Z/112> 資料番号 20304770
- 📖 西田幾多郎(20世紀思想家文庫) / 中村雄二郎(著)  
岩波書店 1983年刊 265p <121.9/139> 資料番号 12301453
- 📖 近代日本の思想家たち / 海辺忠治(著)  
晃洋書房 1983年刊 128p <121.9/140> 資料番号 12301461
- 📖 西田幾多郎 / 下村寅太郎(編)  
岩波書店 1971年刊 352p <121.9C/85> 資料番号 10201960
- 📖 西田幾多郎先生の生涯と思想 / 高坂正顕(著)  
創文社 1971年刊 302p <121.9/84> 資料番号 10201952
- 📖 西田幾多郎 / 竹内良知(著)  
東京大学出版会 1966年刊 294p <121.9/64> 資料番号 10201606
- 📖 西田幾多郎(東海大学文明研究所シリ - ズ) / 下村寅太郎(著)  
東海大学出版会 1965年刊 248p <121.9/70> 資料番号 10201739